紫　波　町

暮らし心地の良いまち
循環と協働、
そして多様性のあるまちづくり

公民連携手法を活用した地域再生
「オガールエリア」

紫波町長　熊谷　泉
所 在 地　〒028-3392
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1
T E L　(019) 672-2111
F A X　(019) 672-2311
U R L　https://www.town.shiwa.iwate.jp/

■町　章■
カタカナで、紫波町の「シ」を図案化したもので、田と畑を表し、町勢の基盤である産業の進展を象徴している。
（昭和30年7月制定）

■人　口■　32,656人
■世帯数■　13,079世帯
■面　積■　238.98㎢
（令和7年2月末現在）

紫波町は昭和30年に１町８村が合併し誕生しました。岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の中間に位置し、北上川が中央を流れ、東は北上高地、西は奥羽山脈までの総面積２３８．９８km^{2}の町です。国道４号やＪＲ東北本線など主要な幹線が南北に走り、高速道路のインターチェンジや３つのＪＲ駅がある交通アクセスに恵まれた町です。

「銭形平次」の生みの親として知られる野村胡堂、童謡「たきび」の作詞者、巽聖歌など多くの偉人の生誕の地としても知られています。

町は、中央部、東部、西部の３つに大きく区分されます。町の中央部は国道４号沿いに古くからの商店街や新たに形成されつつある住宅地とともに水田地帯が広がり、東部ではリンゴやブドウなど果樹栽培が盛んに行われ、道の駅紫波に隣接する紫波フルーツパークでは、ワインなど果実飲料が好評を得ています。西部は全国有数の生産量を誇るもち米のほか、ソバや麦が作られ、東根山周辺ではトレイルランニングなどのアウトドアスポーツが盛況です。「南部杜氏発祥の地」として知られており、町内には百年以上の歴史を持つ日本酒の酒蔵が4社、平六醸造、はじまりの学校、ワイナリーが1社サイダリーが2社存在する「酒のまち」です。また、ラ・フランス温泉館は、レストラン・多目的グラウンドなどが憩いと安らぎの場として町内外の人に愛されています。

平成21年度から、公民連携手法による紫波中央駅前開発「オガールプロジェクト」が始まり、紫波中央駅前には公共施設、民間施設、住宅地が集積したエリアが形成され、町内外から多くの人が来訪し、新たな賑わいが生まれています。さらに、リノベーションまちづくり等中心市街地活性化を図る活動により、オガールエリアの活力を町全体へと波及させる取組みが加速しています。

町では、これまでの基本理念であった「循環」と「協働」に「多様性」の視点を新たに加え、『暮らし心地の良いまち』の実現を目指しています。①誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち、②豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち、③自然と調和した安全で快適なまち、④郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち、⑤多様性とつながりのある暮らし心地の良いまちの５つを分野別方針とし、自然と都市的な要素との調和がとれた環境の中で、多様な人たちがお互いを尊重し、支え合うことで発展するまちをつくっていきます。